

## 周年行事

### 100周年記念行事について—記念礼拝・書籍・DA—

#### 菅原然子（資料室）

自由学園は2021年4月15日に創立100周年を迎えた。新型コロナウイルス感染症の国内外での拡大に伴い、大規模な記念式典等は行わないこととした。本稿では2021年度に行った記念礼拝、関連書籍2冊の出版、デジタルアーカイブの開設、2022年度開催の出版に関連した公開講座、同年開催の行事「JIYU1123」について報告する。

#### I 創立記念礼拝

2021年4月15日午前、自由学園記念講堂にて「自由学園創立100周年記念礼拝」が廣瀬薫牧師（日本同盟基督教団牧師・東京キリスト教学園理事・当時）によって行われ、在校生、教職員が出席した<sup>1</sup>。同日午後6時より自由学園明日館講堂にて「自由学園創立100周年記念礼拝」が高橋和也学園長によって行われ、女子部・男子部・最高学部委員長の他、在校生保護者、卒業生、関連団体などから80名の方が出席して下さった。礼拝後には8名の方から祝辞を頂き、各部委員長が挨拶をした。<sup>2</sup>



自由学園明日館での創立記念礼拝

#### II 記念出版

##### ①『本物を学ぶ学校 自由学園』

婦人之友社編『本物を学ぶ学校』（婦人之友社 2021年4月30日）は、自由学園に100年前から受け継がれる理念と共に、現在の自由学園で行われている未来に向けての取組みについてまとめられた本である<sup>3</sup>。ノンフィクション作家・島村奈津氏による取材・執筆、公文健太郎氏（男子部60回生）撮影による写真から構成されている。

##### ②『自由学園一〇〇年史』

自由学園一〇〇年史編纂委員会編『自由学園一〇〇年史』（自由学園出版局 2021年12月1日）は、学内外に保存されている記録資料に基づき、学園が主体となって初めて「通史」を描いたものである。100周年記念のこの事業の大きな目的は「自己検証」と「社会発信」であり、そのためにも自校の歴史を日本・世界の歴史的文脈、そして国内外の教育分野の動向の中に位置付けることを試みた。2002年の資料室開室、また2011年からの創立90周年を機とした100周年に向けての長期計画の一つとして100年史編纂事業が位置づけられて以来、多くの卒業生ボランティアの方が資料の整理に関わって下さった。そうした働きを土台に、それら整理された資料を使つての本書の編纂が可能となった。3000部印刷、大学史資料協議会所属機関、47都道府県の各中央図書館はじめ、学園がお世話になってきた方々へ寄贈し、100周年記念募金の返礼品としても扱

<sup>1</sup> 「100周年記念礼拝・自由学園 源泉に返り、未来を拓く」『学園新聞』第723号

<sup>2</sup> 「100周年記念礼拝・明日館 新しい歌を歌え」『学園新聞』第723号。「自由学園創立100周年 記念礼拝[式次第]」（資料20210047001）

<sup>3</sup> 「近刊紹介」『学園新聞』第722号

った。他は販売を行った<sup>4</sup>。

### III デジタルアーカイブ「自由学園100年+」

100周年事業として、デジタルアーカイブ(以下DA)「自由学園100年+」の構築・開設を行った。自由学園の100年の歩みを表す歴史史料をウェブサイト上で公開することを目的に、専門家(コンサルティング、デザイン、サイト構築他)の助けも得ながら、主に資料室員によって製作作業を行った。このサイトの特徴は、「年表」「写真」「地図」「学園新聞」という窓口をつくり、閲覧者は自分の興味のある入り口から入って、学園の歴史に触れることができることである。また、書籍『自由学園一〇〇年史』の資料篇も収録しており、読者は本を読みながら、関連資料をサイト上で閲覧することができる。また、デジタルアーカイブの王道の使い方である、資料公開についても順次行っており、利用者はサイト上の「収蔵資料データベース」から自由に検索して資料を画面上で閲覧できる。このように、様々な方向から資料にアクセスできる仕掛けを構築した。今後は内容を充実させていくと同時に、授業等での活用の促進を目指す<sup>5</sup>。

### IV 自由学園明日館公開講座『自由学園一〇〇年史を読む』の開催

『自由学園一〇〇年史』の活用促進を目的に、2022年10月1日～11月26日に全4回の公開講座『自由学園一〇〇年史を読む』を開催した。自由学園明日館公開講座の秋期に開講し、企画・実行は資料室が行った。テーマは以下とした。1～3回は自由学園明日館にてハイブリット開催、4回は自由学園記念講堂にて公開シンポジウムとした。カッコ内は講師。

第1回(10月1日):どのように『自由学園一〇〇年史』はつくられたか? どのように学校はつくられたか? —自由学園創立・教育の方法・学校から社会へ(鈴木康平:同書編集委員長、村上民:同編集委員、菅原然子:同)

第2回(10月22日):学校はどのように続けられたのか?

一戦時下での存続問題と「自由」(村上民、大町麻衣:恵泉女学園史料室、高瀬幸恵:桜美林大学)

第3回(11月5日):戦後の再出発、伝統の継承、学校改革 現代社会において自由学園が目指す教育とは(高橋和也:自由学園学園長、村上民、菅原然子)

第4回(11月26日):「学校をつくる」ってなんだろう—つくる・続ける・活かす(草本朋子:白馬インターナショナルスクール代表理事、永田佳之:聖心女子大学、坂本建一郎:時事通信出版局、高橋和也)

公開講座受講者は73名(うち最高学部学生および学園教職員は37名)、公開シンポジウムは受講者、一般参加者あわせて128名だった<sup>6</sup>。準備は2022年年初頃より資料室で始め、企画書の最終版を決定したのは同年6月29日であった。その後講師の日程調整、明日館との打ち合わせ等を重ね、秋からの開催となった。また、講座では毎回、関連資料を会場にて展示したが、その資料の選定、配置、キャプションの作成等は最高学部生が行った<sup>7</sup>。

### V 100年史事業に関連する学園内外での発表<sup>8</sup>

2022年度には、上記公開講座も含め、100年史事業に関する発表を学園内外で9回行った。

①「私立学校におけるDA構築の実践例—『自由学園100年+』の構想から開設まで」 デジタルアーカイブ学会 DAフォーラム 2022年6月26日(菅原然子:資料室)

②「アーカイブズを共有の知に—自由学園アーカイブズの構築と活用」専門図書館協議会 全国研究集会 同7月20日(村上民:資料室)

③「『らしさ』の視覚化と共有にアーキビストはどうかかわれるか」企業史料協議会「『らしさ』とアーカイブズ」勉強会 同9月9日(菅原)

④「東京都東久留米地域と自由学園—『学校から社会へ』の歴史的展開と現在」全国大学史資料協議会 全国研究会 同10月6日(村上、菅原)

⑤「学校から社会へ—『自由学園一〇〇年史』にみる地域

<sup>4</sup> 「初の通史『自由学園一〇〇年史』刊行」『学園新聞』第727号。「100年史事業活動報告書」(資料室蔵)。

<sup>5</sup> 「デジタルアーカイブ「自由学園100年+」歴史史料デジタルで公開」『学園新聞』第727号。

<sup>6</sup> 「2022年度後期自由学園明日館公開講座『自由学園一〇〇年史』を読む」全四回開催『学園新聞』第734号。「100年史事業活動報告書」。

<sup>7</sup> 「自由学園明日館公開講座2022年度後期『自由学園一〇〇年史』を読む」記録(資料20230010001)。

<sup>8</sup> 「自由学園一〇〇年史編纂事業 書籍・デジタルアーカイブ公開後の活用 この一年(一)」『学園新聞』第733号 2022年12月20日。

社会との関わり」東久留米市民大学中期コース 同10月19日(村上)

⑥「DA『自由学園100年+』における基礎年表情報の空間的可視化」地理情報システム学会学術研究発表大会 同10月29日(吉川慎平:自由学園最高学部)

⑦「変革期にこそアーカイブズを一組織を強くするための自己検証と社会発信」企業史料協議会ビジネスアーカイブズの日シンポジウム 同11月10日(村上)

⑧『『自由学園一〇〇年史』を読む』同10月1日～11月26日(前述)

⑨「アーカイブの可能性」女性アーカイブ研修(国立女性教育会館)2023年1月18日(菅原)



JYU1123 来場者の様子

## VI 「JYU1123」の開催<sup>9</sup>

2022年11月23日、「100周年を記念して自由学園につらなる皆さまに秋のキャンパスを楽しんでいただく日『JYU1123』を開催した(主催:自由学園 共催:100周年募金委員会 協賛:自由学園協力会)。事前予約数は3000人を超え、当日はあいにくの雨模様となったが、卒業生や保護者をはじめとした学園関係者が多数集った。

8つのイベントと11のワークショップが開催された。学園全体を4つのエリアに分け、下記のような内容となった。

- 1:グルメエリア(那須農場のアイス、パン工房製品他)
- 2:マーケットエリア(友愛セール他20以上のブース)
- 3:ワークショップエリア(オーナメント、メイポールダンス体験、さとも堀り等)
- 4:イベント(クラス会、学園内ツアー、LA祭、ウインドオーケストラ演奏、学園長講演等)

イベントでは100周年を記念して最高学部生が中心となって行った「スクールシンボルプロジェクト」の結果発表もあった。コロナ禍により、学園内への一般人の入場は規制が長く続いたが、この日は久しぶりに関係者が集い、南沢キャンパスを堪能した。



JYU1123 マーケット

<sup>9</sup> 「雨天の南沢に3000人近い来場者」『学園新聞』第733号2022年12月20日。